

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277101131		
法人名	医療法人社団一穂会		
事業所名	グループホームハイジの家(1階)		
所在地	静岡県浜松市西区西山町520番地		
自己評価作成日	令和3年7月22日	評価結果市町村受理日	令和3年9月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajirokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&jiyosyoCd=2277101131-00&serviceCd=320&type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和3年8月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療面では隣接の西山病院が急性期病院とのつながりもあり、緊急時の対応は安心できる。その他、口腔衛生士や理学療法士からのアドバイスを受けることもできる。環境においては、周辺には神社があり、四季折々の花を楽しむことができる静かでリハビリを兼ねた散歩もできる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍で人の来訪はありませんが、ベランダには愛らしい野生リスが訪れている事業所です。平均年齢が87.6歳、90代が9名もいるのに、平均介護度は1.3とデイサービス顔負けの壮健さです。在所年数も一番長い人が14年、概ね5、6年という人が大半なことから、「維持する力」に秀でていることが覗えます。菜園ではトマトや胡瓜が実り、育ちを日々見守ることが喜びの利用者もいます。自らづくり、匂いや調理音を味わう事をねらいに調理レクリエーションが毎月継続され、おでんや餃子づくりを堪能するほか、梅ジュースの梅のへそとりやベランダでのBBQなど楽しい催しも職員の苦心で実現させています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体での理念「気持ちのわかる親切・和やかな雰囲気・清潔」を朝礼時に全員で読み上げており、理解し実践に結びつけるようにしている。	開設以来、理念は玄関に掲げています。昨年からは「意識するためにも」、朝礼のとき毎日1名がリードしてその後全員で読み上げるとの取組を始めています。実践は確かで「浴室の溝掃除は隔週」「利用者のタンスの中の整理を月1回」とプラスαのオペレーションが定着しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	法人全体で行っており、単独での動きはない。日常的な交流は困難な部分が多い	生活機能向上連携加算において概ね1日1名、アセスメントと訓練助言をほぼ毎日、理学療法士から受けることができています(4月から)。外から人が日々くることで刺激が生まれ、またはPTに自分のためだけにプログラムを用意してもらえることに喜びを感じて、意欲が膨らむ人もいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人内の包括支援センター等により研修や講演を行っているが、事業所としては運営推進会議にて認知症についての理解を深めていただくよう話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、コロナ禍にて会議は行っていないが、日々の様子や利用者の状況を文書にて送っている。感想やご意見を頂いる。	メンバーが集まる運営推進会議は昨年3月頃から実施できていませんが、写真入りの詳細な運営状況を書面にまとめて郵送で届け、返信シートには激励や感謝の言葉、親身な助言が上がり、職員一同の励みと成っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での連絡のみで積極的な取り組みは行っていない。	行政から「コロナ対策の助言指導が必要であれば～」とアナウンスがあり、事業所では手を挙げています。市役所健康福祉課と医療センターが数名で来訪、「手指消毒が大事」「人流のポイントごとに消毒液を置くべき」といった具体的な指導を得て、実行に移しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	役職職員が中心となりカンファレンスにてアンケートを取り現状はどうか話し合いの機会を儲け取り組んでいる。	「身体拘束廃止・虐待防止・権利擁護委員会」の定期開催、新採研修、年2回の職員研修を漏れなく継続実施しています。ユニットには鍵をかけず鈴を頼りとしていましたが、職員が洗濯の取り込みにテラスにでたのを見計らったのエスケープがあり、新たに携帯アラームを購入しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様、虐待についても自分たちの行っているケアについて見直し虐待に当てはまることはないか考え防止に務めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について学ぶ必要はあるが、機会をつくることができていないのが現状である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は法人内の医療相談課にて説明を行っている。必要時、施設管理者が不安な点等の解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人内にご意見の箱を設けご家族からの要望を聞くことができるようにしている。要望があった際は法人内相談課にて内容の検討をし運営に反映していくようにしている。	LINE(写真もあり)で個々の家族と連絡をとりあうほか、年2回事業所通信を発行しています。一時は面会を緩和させ、アクリル板や窓越しで会えるよう工夫を重ね、スカイプ面会もおこなっていましたが、緊急事態宣言となり現在は再び中止として、電話が中心となっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人内に個別メールにて意見を送ることができる。	法人には相談メールとともに介護職相談窓口の設置があります。事業所内では管理者が評価に絡んで年1回の個人面談をおこなうとともに、普段と違うことに気づけば、声をかけて話をする時間をつくるようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の勤務状況の把握に努めている。また代表者へ報告している。職員個々の向上や職場環境できるだけ良い方向に行くようには考えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で研修参加が難しい状況ではあるが、オンライン等を利用し今後は参加に向けて努力していきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修の参加が難しい状況であったため、同業者との交流も行っていなかった。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時のアセスメントにてご本人の思いに沿えるようご家族も含め考えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、施設内の説明とともにご家族の考えや要望等を把握し不安のないよう支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、ご家族の思いとご本人の状態を把握し現在必要なサービスであるかの検討をしながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人の人としての生活を大切にしその人にあった暮らしができるだけできるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	LINEを活用しご本人の現状を伝え、写真を送る。電話にて声を聴いていただく。オンライン面会を行う等、ご本人とのつながりが保てるよう務めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍ではあるが、行きつけの床屋さんに来ていただき感染予防をしながら散髪を行って頂く等現在可能なことは支援していくよう務めている。	豆まきの豆は衛生に配慮して職員が丸めた模擬豆、お雑煮のお餅で飲み込みが心配される人には白玉だんごに替え、お正月には職員手作りのおみくじで笑顔を引き出す等、できないことやできなくなったことをいかに続けるか、に余念なく努力しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの個性を尊重しまた関係性を把握し対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後においても、ご家族からの相談がある場合は必要に応じて支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「かなえるシート」を作りご本人のかなえたいことは何かを探り、暮らしの中の希望につなげている。	「その人の思いを叶えよう」と、「かなえるシート」を備えて4月から今まで以上にアセスメントに注視しています。食事をはじめ生活全般の中で「その人が今したいこと」や、ちょっとした言葉を書きとめて実践につなげ、幸せ感を味わってもらいたいとしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	相談記録やご本人へのアセスメントを職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日によって状態は違うことを理解し、その人に合った一日であるように務めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員一人ひとりに利用者を担当しモニタリング、カンファレンスを行う。それぞれ意見を出し合い介護計画を作っている。また、ケア担当者会議にて専門的な意見を聞き反映させている。	毎日15分ほどその日の勤務者が集まり、情報共有とともにカンファレンスがおこなわれています。またサービス担当者会議には母体病院の看護部長のほか、相談課や栄養課などの出席が得られ、嚙下等専門的見地からの具申・助言が得られています。	介護計画書は、身体介護が中心のサービス内容で構成されています。今後は情緒面も増えることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はケース記録に残し、気づきや問題点はカンファレンスにて話し合い情報を共有し、介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状態やご家族の状況を考え現在できるより良いサービスの検討を法人の協力を得ながら行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在の状況では地域との結びつきが難しいが、今後はご家族の協力も含め支援できるようにしたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入居時、ご家族の同意のもと西山病院医師となっている。約月2回の診察と必要時の診察を受けることができる。	母体病院が協力医院として月2回の訪問診療に携わり、当日は管理者または計画作成担当者が立ち会っています。コロナ禍で中断してはいますが、訪問歯科医院から口腔衛生士が派遣され、入歯の洗い方の指導や状態チェックおこなわれ、予防にも力を入れています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接の西山病院看護師に必要時連絡をし適宜アドバイスを受けることができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人内、医療相談課や管理者が情報交換を行い相談に務めている。病院関係者との関係づくりは常時行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りは行っていないことをお伝えしている。利用者の状況を診てその都度、ご家族から話を聞いている。医師や看護師、相談課も含めチームで支援している。	「看取りをおこなわない」ことは家族と合意していますが、本人が「どうしても」というケースでは再検討して引き受けた例が過去にあります。急変して母体病院で亡くなるケースが多いものの、老人介護保健施設への転院も含み、希望が通るよう応えていきたいとしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	隣接の西山病院看護師にすぐ連絡できることもあり、応急手当や初期対応についての定期的な訓練は行っていない。職員の実践力を身に付けるためにも今後行っていく必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内の防災訓練に参加し、避難誘導等行っている。防災担当者を決め避難や物品の把握に務めるよう職員へ伝えている。	年2回の防災訓練は敷地内の事業所と連携しておこなっており、感染症に係る訓練も嘔吐物の処理を中心に法人全体でシミュレーション実施しています。内容は避難場所へ移動する程度ですが、所内では連絡メールもつくり、新人指導をおこなう防災担当者の位置づけもあります。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者を認知症の人と捉えてではなくひとりの人として対応していくことを大切にしている。他入居者の前でトイレの言葉かけは耳元でする等小さな配慮をしている。	例えば調理レクリエーションでは、その人に見えることを見極めて「お豆腐切つてね」とお願いするも、その後鍋に移すのは難しいとみてとれば職員が何気なく手を貸す場面があり、日常の中で「できないことが本人に気取られないように」との支援があります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が何をしたいのか、何を言いたいのかを待っている。職員が先走らないよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく、その人のできることを探し、ペースに合わせた一日が過ごせるよう職員同士声をかけあい支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	必要に応じて、居室内で話をしながら季節に合った服装に整えるなど周囲にも配慮した身だしなみ支援を行っている。化粧がいつでもできるよう化粧品をそろえておくなど対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは利用者の状況に合わせて手伝っていただくようにしている。月1回の手作り昼食では料理好きな利用者が発揮できる場面を作ったり、野菜を切る音やおいを感じていただくなど楽しみとなるよう支援している。	敷地内にある病院の厨房から栄養面を重視した献立が毎食届いていますが、準備や片付けは生活リハビリ一環と楽しみの一つとして利用者にも手伝ってもらっています。毎月1回開催される調理レクリエーションでは、昔取った杵柄で職員に指南する頼もしい姿も時に見られます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の栄養課にて栄養バランスを考えたメニューを作ってくれている。利用者の状態に合わせた食事形態にも対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの言葉かけをしている。拒否される方には、うがいをしていただいたり、入れ歯お預かりし職員が洗うなど対応し清潔を保つようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間、トイレ使用が困難な方にはポータブルトイレを使用していただきご自分で排泄できるようにしている。紙パンツ使用でも、トイレの言葉かけをし排泄の失敗を少なくするなど対応している。	平均介護度1.3、布ばんつが6名と、総じて軽度には映りますが、自室にポータブルトイレを置く善処も機能せず「夜間になると洗面器にしてしまう」、「紙パンツをむしってしまう」といった人もいて、原因と対策がままならず症状的には職員を困らせています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を取っていただいたり、散歩や家事作業で体を動かすなどの対応をしている。また、適宜下剤の調節を行い便秘を予防するよう心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日や時間は決めてあるが、入浴日には入りたい時間を聞いたり、ご本人の入りたいタイミングを見計らったりし、利用者に合わせて入浴をしている。	病気で出血がある人や水虫の人は最後に入ってもらおうようにしつつも、湯とタオルは一人ひとり取り替え、衛生に気遣っています。また血液循環がわるく紫色になってしまう人は、お風呂のない日には電子レンジでできる簡易湯たんぽや足浴で補完しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人に合わせ一日の過ごし方を考えている。前日の夜間の状態を考慮し支援している。ご本人が眠れなくて困っている場合は、主治医へ相談し内服薬にて対応していく場合もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報欄にて情報を共有。また、薬ファイルがあり確認がいつでもできる。中止や開始についても記録し、状態の把握ができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人のできることは行っていただくようにしている。嗜好品や要望を取り入れ生活の中に楽しみができるようにと考えているが、十分とは言えず今後工夫が必要である。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の現在、外出はできないが、できるだけ施設周囲の散歩での気分転換をしていただくようにしている。	好みのお弁当を注文して隣の公園で広げたり、病院の中庭で団子をかじりつつお花見をするといった小さな外出が叶い、また室内運動も活発でリハビリバイクは歌を口ずさみながらの人もいれるほどです。ベランダの菜園活動は外気浴となり、野生リスのレストランにも成っています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできる方、お財布がないと不安な方等のご自身で持っただけでいる。使用に関しては外出ができないため行っていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の要望に沿って手紙を出したり、電話を取り次いだりしている。携帯電話の使用も最近は多くなってきている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階のテラスでは菜園を楽しむことができ、2階には吹き抜けのホールがあり光を浴び開放的に過ごせている。それぞれに季節を味わうことができている。	感染症対策に係る清掃は以前から徹底しており、コロナ禍で急に増やしてはなりません。「バレンタインデーにはババロアチョコづくり、ホワイトデーには男性入居者が女性にお菓子を～」といった気持ちの通う場面を日々創出しており、共用空間には温かな空気が流れています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いホール内に観葉植物やで目隠しをし一人で過ごせる空間があり、畳コーナーにて利用者同士が語らう場面などがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の要望やご家族の意見を取り入れすぐしやすいようにしている。使い慣れた筆筒や椅子を持ち込み使用されている方もいる。	本年6月には脚にキャスターがついたベッドに全て入れ替えています。日常業務であるシーツ交換が楽になり、効率がよくなったことから利用者も過ごす時間も増えています。また今後転倒が心配されるようになった場合、動線を確保する取組もスムーズなことが期待されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車いすや歩行器でも通れる広さとなっている施設内はバリアフリー。必要な箇所には手すりをすべてつけている。利用者がかいやすいようにシンクの高さを考えている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277101131		
法人名	医療法人社団一穂会		
事業所名	グループホームハイジの家 (2階)		
所在地	静岡県浜松市西区西山町520番地		
自己評価作成日	令和3年7月22日	評価結果市町村受理日	令和3年9月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajirokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&jiyosyoCd=2277101131-00&serviceCd=320&type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和3年8月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療面では隣接の西山病院が急性期病院とのつながりもあり、緊急時の対応は安心できる。その他、口腔衛生士や理学療法士からのアドバイスを受けることもできる。環境においては、周辺には神社があり、四季折々の花を楽しむことができる静かでリハビリを兼ねた散歩もできる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍で人の来訪はありませんが、ベランダには愛らしい野生リスが訪れている事業所です。平均年齢が87.6歳、90代が9名もいるのに、平均介護度は1.3とデイサービス顔負けの壮健さです。在所年数も一番長い人が14年、概ね5、6年という人が大半なことから、「維持する力」に秀でていることが覗えます。菜園ではトマトや胡瓜が実り、育ちを日々見守ることが喜びの利用者もいます。自らづくり、匂いや調理音を味わう事をねらいに調理レクリエーションが毎月継続され、おでんや餃子づくりを堪能するほか、梅ジュースの梅のへそとりやベランダでのBBQなど楽しい催しも職員の苦心で実現させています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体での理念「気持ちのわかる親切・和やかな雰囲気・清潔」を朝礼時に全員で読み上げており、理解し実践に結びつけるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人全体で行っており、単独での動きはない日常的な交流は困難な部分が多い。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人内の包括支援センター等により研修や講演を行っているが、事業所としては運営推進会議にて認知症についての理解を深めていただくよう話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、コロナ禍にて会議は行っていないが、日々の様子や利用者の状況を文書にて送っている。感想や意見をいただいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での連絡のみで積極的な取り組みは行っていない。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	役職職員が中心となりカンファレンスにてアンケートを取り現状はどうか話し合いの機会を儲け取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様、虐待についても自分たちの行っているケアについて見直し虐待に当てはまることはないか考え、防止に務めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度のついて学ぶ必要はあるが、機会を作ることができていないの現状である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は法人内の医療相談課にて説明を行っている。必要時、施設管理者が不安な点等の解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人内にご意見箱を設けご家族からの要望を聞くことができるようにしている。要望があった際は法人内相談課にて内容の検討をし運営に反映反映していくようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人内に個別メールを送ることができるようになっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の勤務状況の把握に努めている。また、代表者へ報告している。職員個々の向上や職場環境はできるだけ良い方向に行くように考えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で研修参加が難しい状況ではあるが、オンライン等を利用し、今後は傘下に向けて努力していきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修の参加が難しい状況であったため、同業者との交流を行っていなかった。コロナ感染により人員不足となった施設へ職員が行き協力をした。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時のアセスメントにてご本人の思いに沿えるようご家族も含め考えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、施設内の説明とともにご家族の考えや要望等を把握し不安の内容支援している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、ご家族の思いとご本人の状態を把握し現在必要なサービスであるかの検討をしながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人の人としての生活を大切にし、その人に合った暮らしができるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	LINEを活用しご本人の現状を伝え、写真を送る。電話にて声を聴いていただく。オンライン面会を行う等、ご本人とつながりが持てるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍ではあるが、行きつけの床屋さんに来ていただき、感染予防をしながら散髪を行って頂く等現在可能なことは支援していくよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の個性を尊重しまた、関係性を把握し対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後においても、ご家族からの相談がある場合は必要に応じて支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「かなえるシート」を作りご本人のかなえたいことは何かを探り暮らしの希望等につなげている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	相談記録やご本人へのアセスメントを職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日によって状態は違うことを理解し、その人に合った一日であるように務めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員一人ひとりが利用者を担当しモニタリング、カンファレンスを行う。それぞれ意見を出し合い介護計画を作っている。また、ケア担当者会議にて専門的な意見を聞き反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はケース記録に残し、気づきや問題点はカンファレンスにて話し合い情報を共有し、介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状態やご家族の状況を考え現在できるより良いサービスの検討を法人の協力を得ながら行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在の状況では地域との結びつきは難しいが、今後はご家族の協力も含め支援できるようにしたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入居時、ご家族の同意のもと西山病院医師となっている。約月2回の診察と必要時の診察を受けることができる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接の西山病院看護師に必要時連絡をし適宜アドバイスを受けることができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人内、医療相談課や管理者が情報交換を行い相談に努めている。病院関係者との関係づくりは常時行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りは行っていないことをお伝えしている。利用者の状況を診てその都度、ご家族から話を聞いている。医師や看護師、相談課も含めチームで支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	隣接の西山病院看護師にすぐ連絡できることもあり、応急手当や初期対応についての定期的な訓練は行っていない。職員の実践力を身に付けるために今後行っていく必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内の防災訓練に参加し、避難誘導等行っている。防災担当を決め避難や物品の把握に務めるよう職員へ伝えている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者を認知症の人と捉えてではなく一人の人として対応していくことを大切にしている。他入居者の前でトイレの言葉かけは耳元でする等小さな配慮をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が何をしたいのか、何を言いたいのかを待っている。職員が先走らないよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく、その人のできることを探し、ペースに合わせた1日が過ごせるよう職員同士声を掛け合い支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	必要に応じて、室内で話をしながら季節に合った服装に整えるなど周囲にも配慮した身だしなみ支援を行っている。化粧がいつもできるように化粧品をそろえておくなど対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは利用者の状況に合わせて手伝っていただくようにしている。月1階の手作り昼食では料理好きな利用者が発揮できる場面を作ったり、野菜を切る音やにおいを感じていただくなど楽しみとなるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の栄養課にて栄養バランスを考えたメニューを作ってくれている。利用者の状態に合わせた食事形態にも対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの言葉かけをしている。拒否される方には、うがいをしていただいたり、入れ歯をお預かりし職員が洗うなど対応し清潔を保つようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間、トイレ使用が困難な方にはポータブルトイレを使用していただきご自分で排泄できるようにしている。紙パンツ使用でも、トイレの言葉かけをし排泄の失敗を少なくするなど対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を取っていただいたり、散歩や家事作業で体を動かすなどの対応をしている。また、適宜下剤の調節を行い便秘を予防するよう心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日や時間は決めてあるが、入浴日には入りたい時間を聞いたり、ご本人の入りたいタイミングを見計らったりして利用者に合わせた入浴をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	そのひとに合わせて1日の過ごし方を考えている。前日の夜間の状態を考慮し支援している。ご本人が眠れなく手困っている場合は主治医へ相談し内服薬にて対応していく場合もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報欄にて情報を共有。また、薬ファイルがあり確認がいつでもできる。中止や開始についても記録し、状態の把握ができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人のできることは行っていただくようにしている。嗜好品や要望を取り入れ生活の中に楽しみができるようにと考えているが、十分とは言えず今後工夫が必要である。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の現在、外出はできないが、できるだけ施設周囲の散歩での気分転換をしていただくようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできる方、お財布がないと不安な方等のご自身で持っていたりしている。使用に関しては外出できないため行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の要望に沿って手紙を出したり、電話を取り次いだりしている。携帯電話の使用も最近は多くなってきている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階のテラスでは菜園を楽しむことができ、2階には吹き抜けのホールがあり光を浴び開放的に過ごせている。それぞれに季節を味わうことができている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いホール内に観葉植物で目隠しをし一人で過ごせる空間があり、畳コーナーにて利用者同士が語らう場面がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の要望やご家族の意見を取り入れ過ごしやすいようにしている。使い慣れた筆筒や、椅子を持ち込み使用されている方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車いすや歩行器でも通れる広さとなっている施設内はバリアフリー。必要な箇所には手すりをすべてつけている。利用者が使いやすいようシンクの高さも考えている。		